

元氣力発伝処 in PAI

(タイ北部山中の桃源郷)

あるいは総社(岡山県南部の桃の里)



今年4月9日に帰国して、5月1日から「太一や」(岡山県総社市)の真っ赤な旗を立て続け、ピツリ6ヶ月間、慌ただしくも全細胞で日本を満喫した後、10月9日にPAIへ向かってフライトした。12月1日から108日間続行する(たましいのかくじっけん)第二弾に对峙する為だ。このボクの文章が人目にさらされるは11月上旬だから、その頃には桃源郷PAIのNEW MOON VILLAGEに在る我が家の大掃除も終わり片付き、早めにやってきた旅人やPAI在住の人たちと交わり融合しながら、マキを集めたり幟(のぼり)やティピを立てたりして、12月1日に向かって日常生活を営んでいることだろう。

前回のPAIでの生活では「火と旗があれば祭りは出来る!!!」と言い放っていた日本の祭りのキーパーソン「春のうらら」の分骨を、ボクらの村の中心に在る「ガネーシャ祭壇」のなかに埋葬した。彼の一周忌、3月21日、午前9時のことだ。村人たちの祈りが終わった後、ボクはネパールのポーディナートで手に入れたホラ貝を吹きならし埋葬密閉直後のまだやわらかいコンクリートに日付を刻印し、そして「一瞬先はひ、か、り」と一筆刻もうとした途端、周囲の皆が見つめる中、突如と頭が真っ白になってしまい、そしてなぜだか、ホラ貝の丸くって硬い白色の吹き口の部分をやわらかい灰色のコンクリートに3回丁寧に押しつけ、気がついてみたら、正三角形が形造られていたのだ。その瞬間からボクの中の空気が、あ!!!と一変してしまい、この108日間続く祭りへの「凛とした姿勢」のようなものが一瞬にして形造られてしまった。

4月9日に帰国してすぐ、ボクは東京高円寺の南ハズレに在る「ガンバラネBAR」というお店を訪ね、そのオーナーの「ミッキー」と再会した。20世紀最後の夏、2000年の「いのちの祭り」(長野県)で共にイノチを融合した間柄だ。彼は祭りのキーパーソン「春のうらら」の親友でもあり、お店のカウンターの隅の方に「分骨」が祀られて在った。そしてその祭壇の後方に「春のうらら」が主催していたSPACE「ボカラ」のポスターが貼られて在るのを目にした途端、あ!!!と、鳥肌が立ってしまった。ポスターの最上部に丸が三つ、正三角形が形造られていて、それが「春のうらら」の紋章だったのだ。ボクはなにも知らないまま、彼のお墓に「一瞬先は、ひ、か、り」と刻み描くのを放棄させられ、なぜだか、ホラ貝の硬くて丸い吹き口でこれと同じ正三角形を形造

ってしまったのだから。

そして5月1日から、ボクらのSPACEなごみ処「太一や」の旗を揚げ、月に一度のペースでライブなどを展開する中、5月31日の白昼、信州の山奥から四国の山奥に移住した「大村和生」(カズ)のライブをやった。彼はライブの前に天と地と人を結び放つ儀式をやってくれ、その一等最初に火打石で火を起す華麗なる風景を描くのだけど、その一連の「華麗なる火起こし風景」をボクに伝授してくれたのだ。だから、この「縁」を起す為にも(たましいのかくじっけん)はこの「華麗なる火起こし風景」から始まることになるだろう。

この「大村和生」を総社に迎えた一等最初の一コマの中、彼の車の運転席に「あ〜ち」(岡山県建部町在住)作の「ことだまキーホルダー」が転がっていて、手に取ってみると、「啐啄同時」(そったくどうじ)と彫られて在った。とろん流に訳せば(止むにやまれぬgood&GOD TIMMING)かな。ボクが咄嗟にホラ貝の吹き口で丸を三つ刻印し正三角形を形造ったのも、この「啐啄同時」???ボクが絶望の極みの一点で愛妻「はるか」と出会って救われたのも、母なる「女力」と子どもの「未来力」だけで自宅出産して長男「太一」が8月6日広島の日(ボクの両親とも、この日、広島でヒバクしている)にこの世に産まれ出たのも、2012年12月1日から108日間(たましいのかくじっけん)を起こそうとしているのも、そして、仕組みられたように祭りの中でアナタとボクが遭遇し、あ!!!とボクやアナタが融合変化展開してゆくのも、きっと、この「啐啄同時」なのだろう。止むにやまれぬgood&GODなTIMMINGで「うちゅう」が動きボクらを突き動かしてゆく。

この108日間の祭りは、5世帯の村の住人たちと村にやってくる子どもたちや家族の日常生活が「リズム&ベース」となり、電気はないので夜は灯の中、虫やケモノたちの声との共演。そして水道もないから、朝、井戸からの水くみで一日が始まる「井戸端会議」、早寝早起きの「おとなのようちえん」、天と地と人とが融合し日常的に「啐啄同時」が起き連鎖しゆく祭り。場の「誘発力」とアナタの「発芽力」が融合し、「未来力」にうち負かされ「想い」がたちまち「形」に成りゆく祭り。オーガナイズされ、なにもかもが用意されたイベントではなくって、スタッフもミーティン

グも決められたプログラムも「運営」とやらもなくって、やってきたアナタやボクらが始まり巻き起こし変化展開させてゆく「状況劇場」あるいは「ハプニング」、そして「フリースクール」のような祭り。

どうしてもマイクが似合う人や夜型の族はPAIの町を徘徊探索したらいい。108日間の祭りの間にPAIの町とも融合して、みんな「PAI-MAP」を作ってPAIをいつでも戻ってこれる「第二の故郷」にしよう!!他にも、PAIから数時間北上した処、タイ第二の標高を誇る「チェンダオ山」麓のキャンプ場で、2月4日(月)から13日間続く「シャンバラ祭り」(南正人オーガナイズ)があり、立派な音響やステージがあって、行けばまた「何か」が起きるだろう。108日間の(たましいのかくじっけん)の長さの中で、この「シャンバラ祭り」は、「起承転結」の「転」のタイミングだ。「転」とは、めぐること、まわること、転がること、方向を変えること、変化すること(広辞苑)。そして、PAIにもチェンダオにもスバラシイ!!!温泉が在る。「シャンバラ祭り」とも融合して、みんなでのんびり温泉につきながら、ボクらのウツクシイ棲み処(日本)への愛おしい「想い」を世界中に発信できる「形」にしてゆこう!!!

原子力から「原始力」へ!そしてアナタやボクらが自分のはまり処にキチンとはまって、今、日本中に、人それぞれの「元氣力発伝処」を!!!108日間の祭りの間に、みんなで『日本元氣力発伝処MAP』を作って、日本をウツクシクもオーガニックなボクらの棲み処に!!!そして、善悪美醜上下左右男女を超えて、この世は天国、天の国、「西方」浄土、一瞬先は、ひ、か、りの世界。

呆人、とろんより。

ps なにも決めてないプログラムの中、ボクは、12月7日(金)半月の朝、PAIの聖山「ドイチーチョン」(標高1700メートルで、頂上丸ごとが巨大な岩のリングガム)に登って、山の水晶をムーンビレジに持ち帰り、翌日の12月8日(土)の朝、「春のうらら」の骨が埋葬されている「ガネーシャ祭壇」に奉納する予定。12月8日は、ドラマティックな真珠湾攻撃の日、ジョンレノンの命日、そしてボクが愛妻「はるか」にプロポーズして一緒に朝を迎えた日。

だれか、一緒に登って水晶取りに行く人、この指、と〜ま〜れ♪PAI産まれの子長男「太一」(6歳)も登るよ。